

財団法人斎藤報恩会による学術研究助成－低温研究を事例として－

米澤晋彦

1. はじめに

東北大学金属材料研究所は2016年に創立100周年を迎えた。住友家をはじめとして多額の寄附を受けていたが、斎藤報恩会も金属材料研究所に対して多額の寄附を行っていた。その金属材料研究所での組織的な低温科学の研究は、1929（昭和4）年に本多光太郎所長と青山新一助教が斎藤報恩会から研究助成を受けたことに始まるとされている¹⁾。

東北帝国大学における青山らの「低温研究」に関して述べているものとして、東北大学による『東北大学五十年史』や東北大学金属材料研究所創立五十周年記念事業実行委員会による『金研五十周年記念誌』がある。『金研五十周年記念誌』は、「本書の内容は昭和35年発行された東北大学五十年史第11編を改訂し、それに新しく、第6章後半および第7章を追加し、昭和31年発行された金属材料研究所業績要覧を現時点にたって、新しく書きあらためて第8章としたものである」²⁾とあるように、『東北大学五十年史』が基となっており、低温研究に関して特に新たな記述はない。基となった『東北大学五十年史』には、斎藤報恩会による助成の実際についてほとんど述べられていない。また、斎藤報恩会によるものとして、「財団法人斎藤報恩会のあゆみ」編集委員会による、『財団法人斎藤報恩会のあゆみ 財団85年・博物館75年』があり、『東北大学五十年史』を補完するものとなっているが、その論拠が明らかでない。その他に奥田毅³⁾、袋井忠夫⁴⁾、武藤芳雄⁵⁾、鎌谷親善⁶⁾等による論文があるが、これらにおいても斎藤報恩会による助成の実際についてはほとんど述べられていない。

本稿では『事業報告書』や『学術研究費補助申込書』および『学術研究費補助査定案』等の斎藤報恩会所蔵資料⁷⁾を解析することにより、青山らによる「低温研究」の実際を明らかにしたい。なお、本稿においては、引用資料における漢字は氏名を除き原則として常用漢字に改め、常用漢字にはないものはそのまま記載した。また原文は縦書きであったが、本稿においては横書きにし、適宜改行を加えた。

2. 学術研究費補助査定案にみる「低温研究」に対する学術研究助成の実際

本多らが1927（昭和2）年に斎藤報恩会の助成を受けて「低温研究」を行おうとしていたことを示す資料が「昭和2年度学術研究費補助査定案」である。「昭和2年度学術研究費補助査定案」を表1に示す。

「昭和2年度学術研究費補助査定案」は1927（昭和2）年2月16日の第27回評議員会に提出されたもので、従来のように審査員を設けて採否を審査したのではなく、畑井新喜司学術研究総務部長によって審査されたものであった。評議員会では査定案の通り可決されたのであるが、この査定案より、本多他4名が「低温度ノ研究」として9,000円の補助を申請し、その査定結果が「保留」であったことがわかる。

翌1928（昭和3）年にも本多らは斎藤報恩会に学術研究助成の申請をしていた。このことを示す資料が「昭和3年度学術研究費補助査定案」である。「昭和3年度学術研究費補助査定案」を表2に示す。

表1. 昭和2年度学術研究費補助査定案

番号	申込者	研究題目	補助申込額	査定額	記事
1	盛岡高農 門前弘多	植物蟲癭ノ研究	1,480 00	500 00	研究費ノ一部
2	同 富樫浩吾	ヴァルサ菌ニ依ル果樹類樹木類ノ病害研究	1,750 00	1,000 00	機械費及消耗品費ノ一部
3	弘前高校 ■■■■	各元素ノ吸収スペクトルノ研究	2,500 00	-	成績ヲ見タル上考慮スルコト
4	東北帝大 ■■■■	石炭構造ノ研究	3,000 00	-	一先ツ中止
5	同 布施現之助	哺乳動物及爬虫類ノ神経系統ノ研究	1,770 00	1,770 00	
6	盛岡高農 弥富破魔雄	枕詞及序詞ノ研究	200 00	200 00	
7	米沢高工 ■■■■	染料ノ研究	3,000 00	-	一先ツ中止
8	同 後藤文雄	積算電気計器ノ研究	1,000 00	700 00	研究費ノ一部
9	弘前高校 小岩井兼輝	朝鮮及北支那ニ於ケル古生代植物化石採集調査研究	300 00	300 00	
10	東北帝大 矢部長克	関東大震ト地質構造トノ関係研究	2,900 00	2,900 00	必要ニ応ジテ支出スルコト
11	同 長尾巧 清水三郎	本邦白亜紀層ノ研究	2,300 00	700 00	標本購入費ノ一部
12	二高 岡野義三郎	日本産地衣類ノ研究	900 00	900 00	
13	秋田鉦専 志村清次郎	我国ニ於ケル砂鉄鉱処理法ノ研究	500 00	500 00	
14	仙台高工 ■■■■	セメントノ研究	1,850 00	-	一先ツ中止
15	二高 吉井正敏	御坂層ノ成因研究	795 00	300 00	旅費ノ一部
16	東北帝大 高橋純一	本邦含油層ノ比較研究	9,700 00	1,000 00	研究費ノ一部
17	同 熊谷岱蔵 佐武安太郎	糖尿病ノ研究	9,000 00	3,000 00	研究費ノ一部
18	同 東川徳治	支那法制用語ノ研究	1,225 00	1,225 00	
19	同 青木薫	細菌ノ免疫学的分類研究	200 00	-	一先ツ中止、 但シ臨時補助費ヨリ300円支出ス
20	同 村上武次郎	特殊鋼ノ物理冶金学的研究	3,000 00	2,000 00	研究費ノ一部
21	同 木村男也 外1名	神経系統ノ生物学的並形態学的研究	5,380 00	3,000 00	研究費ノ一部
22	秋田鉦専 大橋良一	男鹿半島地体構造ノ研究	3,800 00	300 00	調査費ノ一部
23	二高 佐久間政一	文学史ノ方法論ノ研究	1,000 00	500 00	図書購入費
24	米沢高工 古谷丹	ジョンセン・ラーベック効果ノ研究	300 00	300 00	
25	東北帝大 大久保準三 高橋胖	原子及分子ノ構造ニ関スル研究	2,000 00	1,000 00	研究費ノ一部
26	仙台叢書刊行会	仙台叢書別集刊行	2,750 00	-	一先ツ中止
27	宮城県図書館 ■■■■■■	本邦図書館事業発達史研究	500 00	-	
28	東北帝大 野村博	生姜ノ辛味成分ノ研究	3,000 00	3,000 00	
29	山形高校 ■■■■ 外2名	一般電解現象及二次電池ニ関スル研究	300 00	-	成績ヲ見タル上考慮スルコト
30	同 安斎徹	大鳥湖ノ成因ニ関スル地質的研究	350 00	350 00	
31	同 望月脩二	溶解度ノ測定研究	500 00	500 00	
32	東北帝大 三枝彦雄 外2名	電気絶縁物ノ研究	5,000 00	3,500 00	研究費ノ一部
33	同 朴沢三二 外2名	陸奥湾ニ於ケル生物ノ分布ニ関スル研究	5,000 00	4,000 00	調査費ノ一部
34	同 田中館秀三	北海道火山噴火ノ研究	3,500 00	1,000 00	研究費ノ一部
35	同 喜田貞吉 中村善太郎	奥羽史料研究調査	3,500 00	1,500 00	調査費ノ一部
36	同 宇井伯寿 外2名	西藏仏典ノ研究	7,000 00	2,500 00	図書購入費
37	■■■■■	護良親王史實調査研究	1,200 00	-	見合セ
38	東北帝大 本多光太郎 外4名	低温度ノ研究	9,000 00	-	保留
39	東北学院 ■■■■	宮城県史調査研究	2,400 00	-	見合セ
40	仙台高工 河上益夫	熔融金属混合熱ノ研究	1,120 00	400 00	機械費及消耗品費ノ一部
41	東北帝大 抜山四郎	伝熱面ノ特性ノ研究	1,500 00	750 00	消耗品費及修繕費
42	同 ■■■■	視覚生理学ノ研究	9,880 00	-	見合セ
43	同 井上嘉都治 外2名	海産哺乳動物ノ研究	3,000 00	1,000 00	必要ノ際臨時補助費ヨリ支出ス
44	同 関口蕃樹	胸腔及其内臓ノ外科的研究	5,500 00	3,000 00	二ヶ年間ニ全額ヲ支出ス
45	同 八木秀次 外2名	電気ヲ利用スル通信法ノ研究	40,000 00	40,000 00	
46	同 中村左衛門太郎	地形及地物ノ地震動ニ及ボス影響ニ関スル研究	6,640 00	6,640 00	
	計		173,290 00	90,235 00	

出所)「昭和2年度学術研究費補助査定案」『予算決算ニ関スル書類』より作成。

- 1) 単位円。
- 2) 金額は漢字で記されていたが、アラビア数字に直した。
- 3) 仙台叢書刊行会及び本多の研究を除き、助成を受けられなかった研究の申込者氏名は■で示した。
- 4) 空欄には斜線を入れた。

表2. 昭和3年度学術研究費補助査定案

番号	申込者		研究題目	補助申込額	査定額	記事
	補	氏名				
1	二高	岡澤鉦治	言語学ノ研究	1,500 00	300 00	今回限り承認
2	東北帝大	東川徳治	支那法制用語ノ研究	1,100 00	1,100 00	
3	盛岡高農	三浦第二郎	御明神浜演習林内ニ於ケル降水量及流量ノ調査	1,930 00	1,210 00	器械費及機械据付費
4	同	富樫浩吾	ヴァルサ菌ニヨル果樹類樹木類ノ病害研究	1,000 00	818 80	ポテンシオメーター代
5	同	門前弘多	植物蟲癭ノ研究	304 83	200 00	調査費
6	同	進士織平	日本産蚜蟲ノ研究	440 00	260 00	画工費
7	同	村松舜祐	大豆ノ特殊成分ノ研究	600 00	300 00	材料費、但シ研究進捗ノ模様ニヨリ臨時費ヨリ追加ス
8	東北帝大	兒玉作左衛門	哺乳動物ノ大脳基底核ノ研究	550 00	550 00	
9	岩手県	■■■■■	補米食ノ研究	1,389 40	-	学術研究ト認メズ
10	秋田鉦専	大橋良一	男鹿半島地体構造ノ研究	500 00	200 00	調査費
11	同	米澤浩太郎	石炭ノ性質並ニ劣等炭ノ利用ニ関スル研究	1,600 00	850 00	器械器具費及旅費ノ一部
12	東北帝大	■■■■■	本邦石炭ノ研究	1,000 00	-	申込者ヨリ申込取消
13	福島市	大原八郎	大原氏病ノ病原体研究	150 00	150 00	研究進捗ノ模様ニヨリ臨時費ヨリ追加ス
14	東北帝大	村上武次郎 外2名	特種鋼ノ物理冶金学的研究	3,000 00	1,000 00	研究費ノ一部
15	同	三枝彦雄 望月重雄	電気絶縁物ノ研究	8,000 00	1,500 00	研究費ノ一部
16	二高	阿刀田令造 濱田廉	旧仙台藩古絵図研究	300 00	300 00	
17	同	吉井正敏	御坂層ノ成因研究	300 00	200 00	調査費、今回限りニテ打切、 尚旅費規程決定ノ上査定ス
18	同	岡野義三郎	日本産地衣類ノ研究	900 00	900 00	
19	東北帝大	藤田敏彦 細谷雄二	光覚生理学研究	8,950 00	1,000 00	研究費ノ一部
20	福島高商	土生秀穂 西垣富治	東北ニ於ケル商工業ニ関スル能率研究	2 个年 2,600 00	2,000 00	第23号ト共同
21	弘前高校	小岩井兼輝	北支那及満州ニ於ケル古生代植物化石採集調査研究	500 00	300 00	今回限りニテ打切
22	東北帝大	中村左衛門太郎	地形及地物ノ地震動ニ及ボス影響ノ研究	1,660 00	600 00	研究費
23	福島高商	■■■■■	東北地方ニ於ケル工女ノ食料調査及其栄養研究	1,600 00	-	第20号ヘ合同
24	同	■■■■■	大三島ノ土地制度ノ史的研究	490 00	-	保留
25	東北帝大	長尾巧 清水三郎	本邦白亜紀層ノ研究	1,600 00	1,000 00	研究材料購入費ノ一部
26	同	小久保清治	海水及各種海産動物ニ於ケル体液並ニ血液ノ比較研究	3,700 00	1,200 00	器械費ノ一部
27	同	本多光太郎 外4名	低温度ノ研究	31,000 00	-	見合セ
28	弘前高校	弥富破魔雄	枕詞及序詞ノ研究	200 00	200 00	今回限りニテ打切
29	東北帝大	喜田貞吉	奥羽史料調査研究	2,500 00	-	3 个年経過ニ付キ一先打切、 但シ臨時費ヨリ今回限り700円補助
30	米澤高工	山田桂輔 木船育太	染料ノ研究	1,000 00	300 00	研究費
31	東北帝大	■■■■■	高温ニ於ケル窒素ト水トノ化学平衡ノ研究	3,470 00	-	見合セ
32	同	関口蕃樹	胸腔及其内臓ノ外科的研究	2,500 00	1,500 00	既約ノ分一部支出
33	同	八木秀次 外2名	電気ヲ利用スル通信法ノ研究	40,000 00	40,000 00	既約支出
34		仙台叢書刊行会	仙台叢書刊行	2,750 00	2,750 00	事業継続承認
35	東北帝大	宇井伯寿 外2名	西藏仏典ノ研究	4,500 00	4,500 00	
36	仙台高工	河上益夫	熔解金属混合熱ノ研究	1,760 00	1,760 00	研究費
37	同	小野信雄	ガソリン代用油ノ研究	4,920 00	750 00	研究材料費、但シ進捗ノ模様ニヨリ臨時費ヨリ追加ス
38	東北帝大	山口弥輔	稲ノ二三品種ニ関スル遺伝研究	1,500 00	1,000 00	研究費打切補助
39	同	■■■■■	青化物ノ研究	1,200 00	-	見合セ、但シ臨時費ヨリ必要額支出補助
40	同	八田四郎次	液体ニヨル瓦斯ノ吸収速度ノ研究	1,400 00	450 00	研究費
41	米沢高工	大島徳四郎	古ゴム再製法ノ研究	1,000 00	800 00	器械器具費
42	青森師範	和田千藏	八甲田山青蛙ノ研究	474 00	474 00	
43	山形高校	田島義雄 外2名	一般電解現象及二次電池ニ関スル研究	500 00	300 00	器械費及消耗品費ノ一部
44	東北帝大	高橋純一	本邦油田ノ比較研究	1,500 00	500 00	調査費
			計	147,838 23	71,422 80	
45	東北帝大	畑井新喜司	日本産ミ、スノ種類及分布ノ研究	700 00	±000 00 700 -	三ヶ年継続臨時費ヨリ必要額補助
				148,538 23	72,122 80	

備考 研究費ハ査定額ノ以内ノ金額ヲ補助スルモノトス

出所)「昭和3年度学術研究費補助査定案」『報恩会会計報告』より作成。

- 1) 単位円。
- 2) 金額は漢字で記されていたが、アラビア数字に直した。
- 3) 本多の研究を除き、助成を受けられなかった研究の申込者氏名は■で示した。
- 4) 45の研究は鉛筆で後から書き加えられていた。その結果、補助申込額・査定額共に合計金額が訂正されていた。
- 5) 空欄には斜線を入れた。

「昭和3年度学術研究費補助査定案」は1928（昭和3）年2月16日の第29回評議員会に提出されたもので、評議員会では査定案通り可決された。この査定案より、本多他4名が「低温研究」として31,000円の補助を申請し、その査定結果が「見合せ」であったことがわかる。

そのような「低温研究」が具体的に進展するのは1928（昭和3）年11月のことである⁸⁾。本多と青山の「低温研究」に対する補助の申し出に対して、補助を決定したのが12月6日に開催された第30回評議員会であった。『財団法人斎藤報恩会第七回自昭和三年四月至昭和四年三月事業報告書』には、次のように記載されていた。

二、昭和三年十二月六日第三十回評議員会ヲ開キ左ノ事項ヲ議決シタリ

第一、低温研究補助ノ件

東北帝国大学助教授青山新一氏ノ低温研究ヘ昭和四年度及五年度ノ兩年度ニ亘リ
大約金十萬圓也ノ補助並ニ寄附ヲ為シ其ノ内昭和四年度ニ於テハ营造物建築費ト
シテ金三萬六千圓ヲ寄附スルコトニ決ス

これにより、「低温研究」に対する補助を決定した際に既に建築費も含めておよそ10万円の補助を行うことを決めていたことがわかる。

この「低温研究」に対する補助決定を受けて、従来と異なる、特別な予算項目が設定されることになる。1929（昭和4）年2月21日に開催された第31回評議員会において提出された『昭和四年度財団法人斎藤報恩会歳入歳出予算書』の「歳出之部」において、「第二款事業費」の「第一項学術研究事業費」に「第二目研究補助費」から独立して、新たに「第三目低温研究寄附」が設けられ、39,100.00円が予算として計上されたのである。以後、昭和7年度の「低温研究寄附」が終了するまで、「低温研究寄附」は予算上他の学術研究助成と分けて取り扱われることとなったのであった。

第31回評議員会においては、「昭和4年度学術研究費補助査定案」が提出され、可決された。「昭和4年度学術研究費補助査定案」を、表3に示す。

この査定案より、本多と青山が「低温研究」として36,100円の補助申請を行ったことがわかる。その査定額は39,100円と、申請額よりも3,000円増額されたが、その理由は建築費の見積額が3,000円高くなったためであった。昭和4年度の査定案においては6つの研究が「保留」となったのであるが、その中で唯一増額された研究であった。

3. 「低温研究」申込書にみる助成の実際

このようにして「低温研究」に対して助成が行われるようになったのであるが、1928（昭和3）年の研究助成の申請の際に提出した申込書が、斎藤報恩会所蔵資料の『予算決算ニ関スル書類』に綴じられていた。

この申込書とほぼ同様の内容が、助成が決定した直後の1928（昭和3）年12月に刊行された『斎藤報恩会時報』第24号に掲載されている⁹⁾。申込書との大きな違いは、『斎藤報恩会時報』においては、「今度愈々設立せられる様になつたのは啻に我等同人の喜びばかりでなく、実に国家の為にも慶賀すべき事と信ずる。」と、国家のためになることに触れている事である。

「低温研究」に対する研究助成の申請は、昭和6年度にも行われていた。昭和6年度の申込書

表3. 昭和4年度学術研究費補助査定案

受付番号	申込者		研究題目		補助申込額		査定額		記事
	所属	氏名							
1	山形高校	■■■■■	一般電解現象並二次電池ニ関スル研究		円 600	00	-		研究進捗ノ状況ニヨリ臨時補助費ヨリ300円以内ヲ支出ス
2	福島高商	■■■■■	オロッコ語ノ研究	新	693	80	-		保留
3	盛岡高農	■■■■■	東北ニ於ケル柿ノ単為結果性ノ研究	新	500	00	-		保留
4	同	菊池賢次郎	家畜内蔵寄生蟲特ニ馬ニ寄生スル線蟲類ノ發達史ノ研究	新	680	00	300	00	器械及材料費ノ一部
5	同	小野寺伊勢之助	肥料トシテノ塩化物及硫酸塩ノ研究	新	400	00	300	00	器具器械材料費ノ一部
6	同	■■■■■	蛋白質ノ膠質化学的研究	新	836	00	-		保留
7	同	進士織平	日本産蚜虫ノ研究(図画製作)		300	00	300	00	今回限ニテ打切
8	同	■■■■■	顕花植物ノ受精力ニ関スル研究	新	500	00	-		保留
9	同	富樫浩吾	ヴァルサ菌ニ依ル果樹類樹木類ノ病害研究		1,200	00	920	00	定温器購入費今回限ニテ打切
10	同	門前弘多	植物蟲癭ノ研究		535	00	350	00	器具及旅費ノ一部、今回限ニテ打切
11	盛岡高農	三浦第二郎	御神演習林内ニ於ケル降水量及流量ニ関スル調査		895	00	585		器械購入費、今回限ニテ打切
12	東北帝大	本多光太郎 青山新一	低温研究	新	36,100	00	39,100	00	既定、建築費見積ニヨリ3,000円増額
13	盛岡高農	■■■■■	堂鳩ノ所謂ミューゲ病ノ研究	新	1,000	00	-		保留
14	山形師範	■■■■■	空气中ノ振動ニ関スル研究	新	195	00	-		再打合せノ上臨時費ヨリ補助スルコトアルベシ。
15	秋田鉾専	大橋良一	男鹿半島地体構造ノ研究		400	00	200	00	研究進捗ノ状況ニヨリ今回限打切ニテ臨時補助費ヨリ増額スルコトアルベシ
16	同	■■■■■	石炭ノ性質並ニ其利用ノ研究		500	00	-		研究進捗ノ状況ニヨリ臨時補助費ヨリ300円以内支出ス
17	同	佐藤廣大	添加剤ノ瓦斯過電圧ニ及ボス影響ノ研究	新	643	00	445	00	機械費ノ一部
18	東北帝大	藤田敏彦 細谷雄二	光覚生理学ノ研究		1,200	00	1,200	00	機械購入費
19	秋田鉾専	■■■■■	家庭用無煙燃料ノ研究		2,985	00	-		場合ニヨリ今回限トシテ人件費600円以内ヲ臨時費ヨリ支出スルコトアルベシ
20	二高	小野知夫	ぎしぎし属植物ノ細胞学的研究	新	600	00	150	00	旅費ノ一部
21	福島高商	■■■■■	製糸工女ノ能率研究		1,731	60	-		関係書類完了ノ上再考ス、必要ノ場合ニハ臨時補助費ヨリ500円以内支出ス
22	東北帝大	■■■■■	琉球及台湾第三紀有孔蟲研究	新	100	00	-		目下布哇博物館研究費交渉中ニ付其結果ニヨリ臨時補助費ヨリ500円以内支出ス
23	同	清水三郎	本邦白亜紀層研究		800	00	800	00	今回限ニテ打切
24	東北帝大	村上武次郎 佐藤知雄	特殊鋼ノ物理冶金学的研究		3,600	00	1,200	00	硬度試験器購入費
25	同	眞島利行 森尾森一	植物成分ノ化学的研究		2,000	00	800	00	採集費及薬品費ノ一部
26	同	三枝彦雄 望月重雄	電気絶縁物ノ研究		3,000	00	1,200	00	今回限ニテ打切
27	同	山川章太郎 野村利治	非経口の栄養素トシテ脂肪ノ応用ノ学理的 研究	新	8,420	00	2,000	00	研究材料費
28	同	澤野英四郎	海産動物消化酵素ノ比較研究	新	830	00	480	00	恒温器購入費
29	米沢高工	高橋西蔵	アラ、ギ葉ノ成分関スル研究	新	475	00	300	00	研究費ノ一部
30	二高	阿刀田令造 濱田廉	旧仙台藩古絵図ノ研究		300	00	300	00	
31	岩手医専	鈴木直吉	日本産魚類中枢神経ノ研究	新	300	00	300	00	
32	東北帝大	■■■■■	北海道樽前山火山ノ研究		2,735	00	-		補助三年経過ニ付前例ニヨリ見合
33	同	外村徳三	超短波長電磁波ノ化学的影響ニ関スル研究	新	560	00	300	00	研究費ノ一部
34	同	吉井義次	植物炭酸同化作用並ニ水分蒸騰作用ノ研究	新	1,420	00	750	00	日光計購入費
35	同	児玉作左エ門	哺乳動物大脳基底核ノ研究		680	00	300	00	材料費ノ一部
36	弘前高校	■■■■■	視空間知覚ノ研究	新	300	00	-		保留
37	東北学院	山本六郎	東北地方経済史研究	新	1,500	00	300	00	図書費及旅費ノ一部、
38	東北帝大	野村七録	刺戟ノ比較生理学及一般生理学的研究	新	1,000	00	800	00	ルーカス氏ベンジユラム購入費
39	福島市 大原病院	大原八郎	大原氏病原体ノ研究		150	00	150	00	今回限ニテ打切
40	青森師範	和田干藏	八甲田山青蛙ノ研究		351	00	351	00	今回限ニテ打切
41	東北帝大	八木秀次 抜山平一 千葉茂太郎	電気ヲ利用スル通信法ノ研究		40,000	00	40,000	00	今回ニテ補助終了
42	同	■■■■■	胸腔及其内臓ノ外科的研究		1,000	00	-		既定、昭和五年度1,000円支出ニテ終了
		計			122,915	40	94,181	00	

備考 研究費ハ査定額ノ以内ノ金額ヲ補助スルモノトス

出所)「昭和4年度学術研究費補助査定案」『報恩会会計報告』より作成。

- 1) 金額は漢字で記されていたが、アラビア数字に直した。
- 2) 助成を受けられなかった研究の申込者氏名は■■■■■で示した。
- 3) 空欄には斜線を入れた。

は次のようなものであった。

第三七号

	東北帝国大学教授	
申込者	理学博士	本多光太郎
同	助教授	
	理学博士	青山新一
紹介者	評議員	林鶴一

一、事業ノ目的計画及其説明

研究題目 低温研究（継続）

私共低温研究ニ対シ貴会ヨリ曩ニ研究費ノ補助ヲ相受居候処購入機械ニ対シ予定価格ニテハ購入不可能ノ為金貳万円ノ増加補助相受度候間御承諾被下度此段申込候也

二、収支予算

一、金二〇,〇〇〇円

内訳

九,〇〇〇円 液体空気製造機壺式 予定価格金貳万円ニ対スル増額

九,〇〇〇円 液体水素製造機壺式 予定価格金貳萬壺千円ニ対スル増額

二,〇〇〇円 水電解装置壺式 予定価格金五千五十円ニ対スル増額

備考

液体空気製造機 仏国クロード製（巴里工場）

液体水素製造機 独逸ハイラレド製（伯林工場）

水電解装置壺式 独逸シュッケルト製（ニュールンベルヒ工場）

助成を申請するためには評議員の紹介が必要であったが、紹介者は東北帝国大学名誉教授の林鶴一であったことがわかる。また、昭和6年度は新たな研究に対する補助を申請したのではなく、輸入機材の購入価格が高騰したため、当初の購入予定価格との差額の補助を求めたということがわかる。これは、同じく昭和6年度に「電気ヲ利用スル通信法ノ研究」において「人件費」として7,000円を申請した八木秀次らとは異なっていた。

また2万円の内訳を見ると、いずれも購入予定価格から1.5倍も高騰したことがわかる。

4. おわりに

本稿では『事業報告書』や『学術研究費補助申込書』および『学術研究費補助査定案』等の斎藤報恩会所蔵資料を解析することにより、青山らによる「低温研究」の実際について述べた。

本多らは「低温研究」に対する助成の申請を、1927（昭和2）年に既に行っていた。昭和2年度は本多他4名が「低温度ノ研究」として9,000円の補助を申請したが、その査定結果は「保留」となった。昭和3年度には31,000円の補助を申請したが、その査定結果は「見合せ」であった。昭和2年度、3年度ともに、申請者として本多の名が記されていたが、青山の名は記されていなかった。そのような経緯を経て、1928（昭和3）年12月6日に開催された第30回評議員会で、補助が承認されたのであった。

評議員会において「低温研究」に対する補助が決定したとき既に、建築費も含めておよそ10万円の補助を行うことは決まっていた。

この「低温研究」に対する補助決定を受けて、従来と異なる、特別な予算項目が設定されることになる。昭和4年度より、「第一項学術研究事業費」に「第二目研究補助費」から独立して新たに「第三目低温研究寄附」が設けられ、39,100.00円が予算として計上されたのである。以後、昭和7年度の「低温研究寄附」が終了するまで、「低温研究寄附」は予算上他の学術研究助成と分けて取り扱われることとなった。

昭和4年度には、本多と青山が「低温研究」として36,100円の補助申請を行っていたが、その査定額は39,100円と、申請額よりも3,000円増額されていた。増額の理由は建築費の見積額が3,000円高くなったためであった。昭和4年度の査定案においては6つの研究が「保留」となったのであるが、その中で唯一増額された研究であった。

「低温研究」の申込書には、理学部、工学部、医学部と複数の学部の研究に有益であることが述べられていたが、「国家の為」とは書かれていなかった。昭和6年度の紹介者は林で、これは新たな研究に対する助成の申請ではなく、輸入機材の購入予定価格と購入価格の差額の補助を求めたものであり、購入価格は予定価格の1.5倍にもなっていたのであった。

注

- 1) 小林典男「金研低温の歴史：本多光太郎欧州留学－青山新一－袋井忠夫、神田英蔵－日本初のヘリウム液化まで」『IMR NEWS Kinken』 Vol.67, 2012, p.9。
- 2) 東北大学金属材料研究所創立50周年記念事業実行委員会編『金研50年』，東北大学金属材料研究所創立50周年記念事業実行委員会，1966, p.144。
- 3) 奥田毅「“低温”事始」『低温工学』 Vol.3 No.3, 1968, pp.40-41。
- 4) 袋井忠夫「わが国における低温物理研究の起源」『低温工学』 Vol.3 No.5, 1968, pp.46-47。
- 5) 武藤芳雄「随想 低温研究発祥の地・仙台」『低温工学』 Vol.33 No.6, 1998, pp.6-14。
- 6) 鎌谷親善「東北大学附置金属材料研究所－設立から体制の整備まで－」『化学史研究』 Vol.24, 1997, pp.1-32。
- 7) これらの資料は2016年に斎藤報恩会から東北大学史料館に寄贈された。
- 8) 『財団法人斎藤報恩会のあゆみ 財団85年・博物館75年』には、「昭和3年（1928）11月、本多光太郎と青山新一は斎藤報恩会に低温研究に必要な建物、器具、機械への研究費補助を願い出る。この申請は翌月には斎藤報恩会評議員会において補助決定となり、続いて東北帝国大学評議会からも承認される」とあり、『時報』第61号に掲載されている「低温設備の完成披露会に於ける本多金属材料研究所長の挨拶」には「昭和三年十一月三十日財団法人斎藤報恩会に低温の研究設備に必要な建物器具機械に対する補助費の寄附を願出で翌月末同評議員会に於て金拾万円を限度とする補助を受くべき了解を得ました」とある。
- 9) 青山新一「低温研究所設立に就て」『斎藤報恩会時報』第24号，1928, pp.28-36。

